

特別な 食事の 会
聖 餐 式

イエス様の生涯をたどる

参入	イエス様に来てもらって、私たちの心を集める		
大栄光の歌	イエス様の誕生。感謝・賛美		
聖書（み言葉）	旧約 使徒書 福音書	実現	伝えたい事（弟子からの見解） イエス様が言った事、行動した事
ニケヤ信経	信仰告白		
代祷	みんなのために祈る		
懺悔	自分の行動を振り返る（心を整え直す）		
奉献	心を整え捧げ物をする（みんなで分け合う、支え合う）		
感謝聖別	最後の晩餐の再現	（心を1つに）	
陪餐	パンとぶどう酒		
祝福	派遣	（各々の現場へ）	

参入 祈祷書 p162

イエス様に来てもらって、一緒に礼拝する

昔は、時計も無かったので、礼拝の前に町を練り歩いて知らせ回り、そして、みんなが礼拝する所に集まって行った。プロセッション（行進）は、その名残り

「復活のみ姿を現されたように」

【ヨハネ 20:19~】【ルカ 24:13-49】【マルコ 16:12-13】【マタイ 28:17-20】

キリエ 祈祷書 p163

キリエ・エレイソン (κυριε ελεησον) キュリエ・エレエーソン
キリスト・エレイソン (χριστε ελεησον) クリステ・エレエーソン

κυριε	κυριος	(主)	単数・呼格	「主よ」
χριστε	χριστος	(キリスト)	単数・呼格	「キリストよ」
ελεησον	ελεεω	(憐れむ)	2人称・単数・命令法・第一不定過去	「あなたは、憐れめ(憐れんでください)」

ελεησον が使われている聖書箇所

マタイ 9:27、15:22、17:15、20:30、20:31	マルコ 10:47、10:48
ルカ 16:24、17:13、18:38、18:39	詩編 41:5

大栄光の歌（グロリア） 祈祷書 p164

「いと高きところには神に栄光、・・・」

【ルカ 2:14】の引用

羊飼いのもとに天使がイエス様が生まれたことを伝えた時
この天使に天の大軍が加わり、神を賛美した。

「神の小羊」

イエス様のこと。わたしたちの罪の贖いとして、生贄の役割を果たし、神との正しい関係に入ることを示してくれた。【1コリ 5:7】

以前は「主の過越」実際に子羊を生贄として献げていた。【出エジプト記 12章】

その他、参考聖書箇所

ヨハネ 1:29、1ペト 1:19、レビ記 4:32

当時の献げ物については【レビ記 1~7章】に詳しく載っている

三位一体の神に対する賛美で締めくくられる

聖書（み言葉） 祈禱書 p165

聖公会の主日の聖餐式聖書日課は、A・B・C年と3年周期で行われている。

（ローマカトリックも同様に3年周期だが、細部は異なる）

（早・晩禱は、1・2年の2年周期）

基本的に旧約聖書・使徒書・福音書から、その主日に適した聖書箇所が選ばれる。

まず神様が語りかけてくれる。そして、わたしたちが信仰をもってこたえる。

説教は、単なるメッセージではなく、み言葉に対して分かりやすく解き明かしてくれるもの。

参考URL：Jesus Christ Fan Club 聖書日課

<http://jcf.net/nikka.html>

ニケヤ信経 祈禱書 p166

信仰告白。神様をこう理解して、こういうふうに信じてますという宣言。

4世紀に行われた、全教会規模の公会議で採択された。

聖公会では、ニケヤ信経を公会の、使徒信経を個人の信仰告白としている。

（冒頭文：ニケヤ「わたしたちは」。使徒信経「わたしは」）

代禱 祈禱書 p168

み言葉を聞き、説教で理解が更に深まり、信仰告白し、準備を整えたら、次は具体的な行動にうつす。

すべての人が神様のみこころにかなうように、そして神様のみ言葉と恵みの証人となれるように、みんなのために祈る。

祈禱書には具体的に祈る項目が列挙されているが、ここに載っているもの以外の祈りを用いる事もできる。

懺悔 祈禱書 p170

聖餐にあずかる前に懺悔をもって、自分の行動を振り返り、心を整え直す。

まず、司祭が懺悔し会衆に祈りを求め、会衆は司祭のために祈る。

司祭の手本に倣い、会衆が懺悔し、司祭が会衆のために祈る。

ここでは、個人的な懺悔ではなく公会としての懺悔、みんなの心を1つにして悔い改める。

懺悔なく聖餐にあずかることはできない。

文中の「師父」は、「師」または「主教（司祭）」と読み替えることが推奨されている。

懺悔の後、「平和の挨拶」を交わす

奉献 祈禱書 p172

「信施」は献金。「供え物」は（主に）パンとぶどう酒。

現在は、パンもぶどう酒も事前に準備されたものを供えているが、昔はパンやぶどう酒に限らず教会に様々なものが供えられていて、その中からパンとぶどう酒を選び陪餐用に供えていた。

貨幣社会になり、主に献金としてお金を集めているが、分け合い・支え合うことが目的。

参考聖書箇所

このような寄進ができるとしても、わたしなど果たして何者でしょう、わたしの民など何者でしょう。すべてはあなたからいただいたもの、わたしたちは御手から受け取って、差し出したにすぎません。

（歴代誌上 29:14）

感謝聖別 祈禱書 p172

「最後の晚餐」の再現。主教（司祭）は、今、この場で再現する。

- ・ と2種類の祈禱文がある。どちらを選択するかは司式者による。

参考聖書箇所

マタイ 26:26-30。マルコ 14:22-26。ルカ 22:15-20。1コリ 11:23-26。

陪餐 祈禱書 p180

パン（主イエス・キリストの体）、ぶどう酒（主イエス・キリストの血）にあずかる。

1つのパンが裂かれ、皆が共にあずかることは、

「主キリストとの一致」「全公会の一致」「全人類の主にある一致」

参考聖書箇所

わたしたちが神を賛美する賛美の杯は、キリストの血にあずかることではないか。

わたしたちが裂くパンは、キリストの体にあずかることではないか。

パンは一つだから、わたしたちは大勢でも一つの体です。皆が一つのパンを分けて食べるからです。

（1コリ 10:16-17）

祝福 祈禱書 p183

最後に司祭は、会衆を祝福し、各々の現場に送り出す（派遣）。